
グリーンガーデン

美衣 × 2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グリーンガーデン

【Nコード】

N4048D

【作者名】

美衣×2

【あらすじ】

ある日、電車で出会った女性。そしてその女性からある頼みごとをされてしまった中年男性の冒険。

或る男

1「或る男」

皆、一様に同じだ。

朝のラッシュ時の駅の光景なんて、見飽きてる。

難しい顔で新聞を小脇に抱えビジネスバッグを重そうに持つビジネスマン。

警戒心のためか、口を一文字に結んだスーツ姿の女性。

きつと、自分も面白くなさそうな顔をしているに違いない。

ガタン ガタン ガタン

行過ぎる通過電車に意識を奪われ、気がつく。

今日は、月曜日だ。

だから皆、面白くない表情なのかもしれないな。休みあけの仕事ほど憂鬱なものはない。

周囲の人間の固い表情も納得できた。

しかし、自分は休みあけではない。

自分など、ついぞ休みらしい休みなど持てたことがなかったからな。自分が面白くなさそうな表情なのは、今日が本社出勤の日だからだ。

プシューウウ…

自分が乗る電車が来た。

プシュー…

さあ、乗ってくれといわんばかりにドアが開く。
人波に押されるように電車に乗った。

満員だ。

本社へ向かう電車は満員であることが多いから嫌いだ。

自分の鞆は、仕事上普通のビジネスバッグと違い、かなりデカイのだ。

この鞆のせいで痴漢に間違われたら…と思うと冷や汗が出る。

この話を同僚にすると、

「俺は、そんな時、吊り革持つぜ？」

まあ、両手ふさがってましたって言える状況にしとけばいいのさ！
要は！

なんなら、万歳して満員電車に乗るか？」

と、笑い飛ばされた。

すぐ近くに、小柄な若い女性がいた。満員電車に慣れていなさそうに電車が揺れるたびにフラフラしていて、危なっかしい。気の弱そうな感じだ。自分の目線からは女性の顔より頭で判断するしかないが、黒い艶やかな髪は健康だが真面目そうな印象を見るものに与える。着ているスーツはグレーであるが、着慣れていないのか、どこかぎこちない。

新入社員なのだろう。

誰も他人に関心の無い電車の中で、少し微笑ましい気持ちになった。女性の頭が動き、自分のほうを見た。

どんな顔かと思って、自分も見ていたが、女性は何か文句言いたげな表情だった。ちょっと大きな黒い瞳を潤ませて自分を非難するように睨んでいる。

おや、もしかして痴漢と思われているのかな。確かに、自分のデカ

イ鞆が女性の身体にあたっているのかもしれない。

ちょうどドア付近の吊り革しか持てないが。

誤解を解くためにも、自分はせめて鞆の持っていない片手を吊り革に伸ばした。

自分もそう背が高いほうではない。身長は165センチだ。この体制で、ドア付近の少し高くなっている吊り革を持つのは、少し苦しい。

或る男は、このまま目的の駅まで電車に揺られた。誤解されるといけないので、さっきの女性のほうを見ないように心がけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4048d/>

グリーンガーデン

2010年12月30日14時16分発行